

月刊
JMITU

アサヒ

新型コロナ対応版



4月号

日本金属製造情報通信労働組合大田地域支部
セガ グループ分会 2022年発行

No.448

春闘・夏季一時金回答 昨年度よりアップ

夏季一時金

セガ

一般正社員（Lp格以下）

係数3、0

平均賞与額

107万8751円

セガ、SLSより春闘・夏季一時金について団体交渉にて回答がありました。

がつている。

一時金についても昨年を上

回る係数3、0、その他の施策

でも、V字回復特別報奨金も支

給済みです。

組合「社員については賃金等、

それなりには対処してきてい

るが、一緒に働いている非正規

の方にも、社員同様待遇をよく

してほしい。」

会社「非正規とかいう思想は持

っていないが、雇用形態につい

て会社としては意味があるも

ので、その雇用区分で役割が違

う、できることが増えてくれれば、

社員登用制度もあり、実際に何

十人もいる。完全に遮断してい

るわけではない。」

プとして500円調整給として支給する。

一時金の方は2.0で支給

さらに27期BP達成して

いるのでインセンティブ制度

というものがあるので、別途支

給します。上回った利益によつ

て変わるので会社の利益が固

まってるから具体的な数字をお

話しします。上期の下期の評価、

資格、で変わるが、かなり皆さ

んに還元できる。

組合としてSLSの昇給額

が年々下がってきています。

この状況はセガについても

数年後にはこのような状態に

なりえます。資格の上限に達し

昇格できなければ賃金は上が

りません。

セガ、SLS両社の回答に対

し、組合としては、要求に対し

て満額とはいきませんでしたが、

執行部了承で妥結の方向に

向かおうと思います。

賃上げ

セガ

一般正社員（Lp格以下）

平均昇給額 5798円

昇給率 1.7%

平均賞与額

72万6554円

一般正社員（MS格以下）

係数2、0

支給日は6月17日予定

SLS

一般正社員（MS格以下）

平均昇給額 3519円

別途全社員に一律で500

円の調整給を支給

昇給額合計 4019円

今回のセガ会社回答では、

「今期は業績が良いと判断。通

常であれば1.58%のところ

今回の施策（Gp格の底上げ）

その他資格の適正化で会社と

しては今回かなりの昇給額、一

般層での平均昇給率は3%上

SLS回答

27期BP達成している。B

Pより数千万円上回っている。

通常の昇給に加え、全社員

（管理職含む）一律ベースアッ

仙洞田一彦

これでもか、これでもかとうクライナの今がテレビの映像で流される。うんざりしている。見たくない。それは自分の胸に突き刺さるからだ。

画面のぼかしがかかっている部分は遺体だという。建物は崩れ落ち、鉄骨も見える。壁が破壊されて舞台装置のよ

うに部屋の中が丸見えになっているところもある。コンクリートの壁が壊されるほどの衝撃だから、ベッドも、家具も、玩具も散乱している。道路では乗用車も塗料が燃えて鉄がむき出しになり、放り出されたままの時間の経過を示すように、既に赤茶色の錆が

吹いている。ウクライナか、ロシアの戦車か知らないが、これも放置され、錆びている。錆は残酷な時間が続いていることを示している。

見たくないと思いテレビのリモコンを手取るが、目を見開いて直視しなければいけないという気持ちも起り、スイッチを切ることができない。音声のポリウムは聞こえるか聞こえないかのところまで下げた。

ふとその時「罪悪感」という言葉が聞こえたような気がした。避難する人々の列が写し出されている画面だった。徒歩だから、持っている荷物はわずかだ。ちよっとした旅行に出かけるくらいの荷物だ。しかし、住んでいたところが破壊されていけば、そのわず

かな荷物が、生きていくためのすべてである。あるのは命だけといってもよい極限状況である。男は残れと言う命令が出ているので、避難しているのは女性、子供、高齢者だけ。

罪悪感と言ったのか、どうか分からない。場面を見て私の気持ちに浮かんたのかも知れない。前線でロシアと戦わずに逃げて来たという思いから、そう言ったのかもしれない。男性でなく女性から出た言葉としても不思議ではない。前線から離れるということからの連想か、「運が悪かった」という父の言葉を思い出した。父は「満州」に日本軍の兵として行った。その地で結核を病み、終戦以前に日本に帰された。戦後、結核が再発し、長

い入院生活を余儀なくされた。亡くなって五十年近く経つ。

「運が悪かった」

父が呂律のまわらなくなった言葉で言った。卓袱台の前に座り、晩酌をしていた。

また始まったと中学生の私は思った。毎日というのではないが、酒量が度を過ぎると、この言葉が出る。狭い家だから、離れていても聞こえる。母は台所に行っている。母だって聞きたくないのだから。

結核になって運が悪かったというのだ。戦争に行った人でも病気になるなかった人は元気でやっている。ところが自分は結核になってしまったために苦労している。嘆き。愚痴。私は聞いていられなかったが、逃げるとこ

ろもなかった。願うことは酒の量を越さないことだけだった。私はうんざりして父に刃向かうこともあった。

「そんなこと言ってたって仕方ないじゃないか」

父の姿を見ていて情けなくなる、それへの反発だった。

反発しながら、私も惨めな気持ちになった。しかし私の反発で、父の嘆き、愚痴は止む。

入院生活もあったが、父は戦後三十年近くを生きた。生きられてよかったのではない。戦死した人よりずっと運が良かったのではないか。

ふっと聞こえた「罪悪感」、結核だけでなく、これもあって父に「運が悪かった」と言わせていたのではないかと思っただのだ。「満州」から逃げて帰ってきたのではないかも知

れないが、一緒に行った兵の中に戦死者がいる以上「運が良かった」とは、決して言えなかったのではないか。周りが亡くなって、生き残った者が、罪悪感を持つことは聞いたことがある。それと同じではないか。

後年、父が不運を戦争のせいにしていないで、病気のせいにしていた父への違和感も生じた。戦争に行つて亡くなった人、負傷した人もいたが、戦後も元気で働いていた人も多い。だから不運といえ、不運。しかし、戦争がなければ、ずっと違った人生が送れたことも間違いないだろう。当時の教育のためなんだろう。か、父は不運を戦争のせいに出れない世代だと思ふこともあった。自分の不運は戦争の

せいだと言えば、戦争を否定することになる。それ以前の侵略者の一員としての罪悪感ではなく、肝心なところが抜け落ちているのかもしれない罪悪感。生きていることを素直に喜べない戦争。

映像には人形を抱いた幼い子の手を引く女性が、重い足取りで国境を超える姿が映し出されている。杖を突きながら、右に左に体を揺らせ、ゆっくり歩く老人が国境を超える姿も映し出されている。この先さらに何を負わせられるのか。緊張も疲労も困惑も引きずりながら歩いている後姿。